

2016-2017 グローバル補助金奨学生

古林安希子

茅ヶ崎中央ロータリークラブからご推薦いただき、グローバル補助金を頂いて2015-2017年にアメリカのコロンビア大学に留学しておりました。民間企業での経験を経た後、留学を決めたのは、以前から関心のあった難民・国内避難民に関わる仕事へのキャリアチェンジを目指してのことでした。留学先のコロンビア大学 国際公共政策大学院では人権・人道政策を専攻し、主に難民・国内避難民に関する国際政策について学びました。



2017年の卒業後日本に帰国しておりましたが、この度、若手日本人を国際機関に派遣する外務省のプログラムで、ウガンダに赴任が決まったため、2月6日の例会に赴任前のご挨拶に伺わせていただきました。ウガンダでは国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）という機関で、難民受け入れ政策実施のための政府の支援や、支援プログラムの実施状況のモニタリングと評価、ドナーや国際社会への報告などを担当します。この仕事は、留学して難民・国内避難民に関する国際政策を専門的に学ぶことができたからこそ、得ることができました。改めて、留学をご支援いただいたロータリアンの皆さまに心より感謝を申し上げます。

今回は、難民・国内避難民の世界的な情勢について、また、ウガンダの難民政策について簡単にご紹介させていただきます。まず、ここまで書いている「難民・国内避難民」という言葉についてです。政治的・宗教的弾圧、災害、紛争など様々な理由で、自分の意思に反して自宅から避難せざるを得なくなることを、強制移住(Forced migration)といいます。今、世界中で強制移住を余儀なくされている人口は6560万人といわれており、記録がある第二次世界大戦以降で最大規模です¹。この自宅を追われた人達のうち、出身国内にいる人々が「国内避難民」、国境を越えて別の国に避難している人達が「難民」と定義されています。日本では、就職難民、ネットカフェ難民などと、いろいろなところで「難民」という言葉が使われていますが、これは国際法上の「難民」とは全く異なる用法です。

2016年の統計では、世界中で2250万人の人が難民として、自国以外に避難していました。難民の出身国で数が多いのは、シリア、アフガニスタン、南スーダン、ソマリア、スーダン、コンゴ民主共和国などです。一方、受け入れ数が多いのは、日本で話題になることが多いヨーロッパ諸国ではなく、数が多い順にトルコ、パキスタン、レバノン、イラン、ウガンダ、エチオピアと発展途上国が並んでいます。先進国でトップ10に出てくるのは、8位のドイツだけです。世界中の全難民の84%は地理的に近い低・中所得国が受け入れており、元々リソースが比較的少ない国で難民を受け入れる体制をどう整えることができるのか、国際社会での受け入れの負担をどう分担するかが課題となっています。

私がこれから働くウガンダは大量の難民が発生している、南スーダン・コンゴ民主共和国・中央アフリカ共和国などに近接しており、近年難民流入数が急増し、100万人を超える難民を受け入れています。このような状況下でもウガンダは大変「寛容な」難民受け入れ政策を実施しており、世界的に注目を集めています。ウガンダでは難民は難民キャンプで支援物資を待つて暮らしているのではなく、難民登録後は自由に移動することができ、就労が許可されており、土地が割り当てられ、一部公的サービスへのアクセスも保障されています。

¹ 以降データは、特に注記がない場合は全て国連難民高等弁務官事務所の Global Trend 2016 による。

翻って、日本の難民受け入れ状況はどうかというと、先進諸国の中では格段に難民受け入れ数が少ない国です。2016年に難民認定されたのは28名²でした。これは申請数が少ないことだけが要因ではないことは、認定率が大変低いことから明らかです。G7各国では、申請者のうちドイツは41%、フランスは21%、カナダは67%、認定率の低いイタリアでも5%は難民と認定されているのに対し、日本では0.3%しか認定されていません³。この状態は国際社会でも批判を受けており、旧来の難民以外の枠組みでの留学生や外国人労働者としての難民の受け入れも始まっていますが、まだまだ先進国としての国際的な責任を果たしているとはいえないレベルの受け入れしか実施できていません。こういった新たな留学生や外国人労働者としての難民の受け入れは民間の支援によって推進されているものも多くあり、奉仕の精神をお持ちのロータリアンの皆さまに、是非サポートしていただきたいテーマです。

今回の記事は、大学院で学んだことや就職活動に当たって調査したことをもとにまとめました。今後、現場での難民支援をする中で、色々な学びや気づきがあると思います。難民の現状、国際社会の取り組みについて、引き続き皆さんと一緒に考えていくことができればとても光栄です。



2016年8月一時帰国の時に茅ヶ崎で活動報告



2017年7月浜降祭での海岸清掃をお手伝いしてくれました。



2017年8月花火大会では、射的の係をしてくださいました。

茅ヶ崎中央ロータリークラブは、財団学友古林安希子氏のウガンダでのご活躍を一同で祈念しております。

² 法務省入国管理局 http://www.moj.go.jp/nyuukokukanri/kouhou/nyuukokukanri03_00666.html

³ 難民支援協会ホームページ <https://www.refugee.or.jp/jar/report/2017/09/14-0002.shtml> 同文にある難民認定数は2016年のデータであるが、この認定率のデータは同年のデータではない